

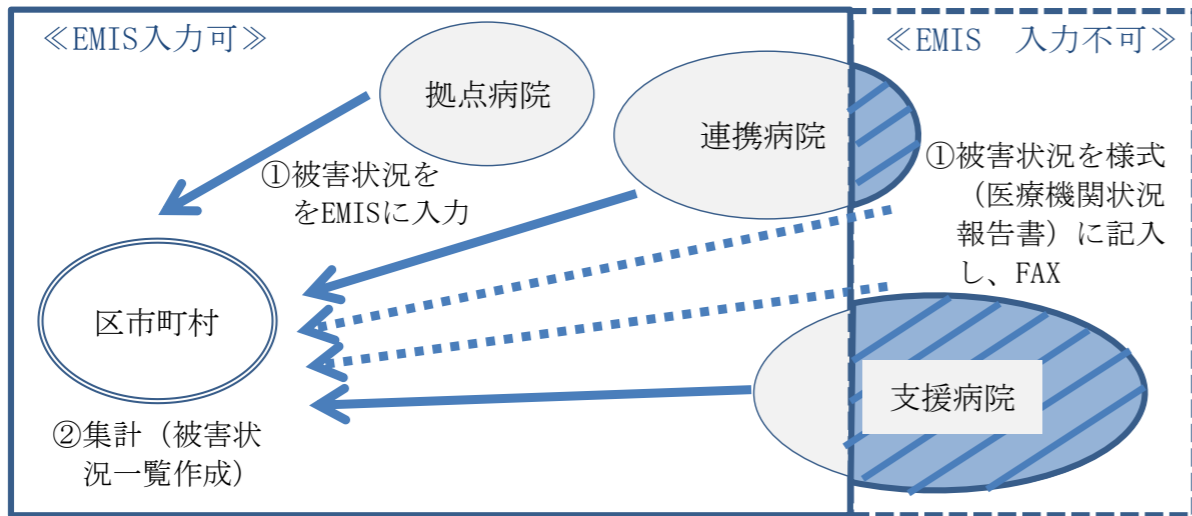
## 取組④ 被害情報等を共有するためのツールの導入

### 現状・課題

**<現状>**

- 発災後に、各病院は各区市町村へ被害状況を報告するが、その方法は、厚生労働省が運用するEMIS（広域災害救急医療情報システム）への入力もしくは様式のFAX送信等により対応することとしている
- EMISに関して、東京都においては、東京消防庁の救急医療情報システムと連動しているに伴い、現在、救急告示医療機関のみ導入している状況である（約650の病院のうち、約330の病院にEMISが導入され、約320の病院にEMISが導入されていない）
- EMISが導入されている病院の被害状況については、都・医療対策拠点（二次保健医療圏）・区市町村・EMISが導入されている全病院が閲覧することができる
- EMISで入力された情報については、CSVファイルでの出力が可能なおことから、集計が容易にできる

**【発災直後の病院の被災状況の把握】**



**<課題>**

- ほぼ半数の病院にEMISが導入されておらず、これらの病院の被害状況は、区市町村が手作業でまとめる必要がある
  - ⇒ 被害状況把握のためのツールが2種類（EMIS・FAX）あり、うち1種類は紙ベースのため、区市町村が集計作業を行うに当たり、時間や手間を要する
- EMISが導入されていない病院は、区市町村のみへFAXで被害状況を送付する
  - ⇒ 被害状況を各機関が随時共有することができない
- EMISの登録医療機関について、都では、救急医療情報システムと連動していることから、救急医療情報システムを改修する必要がある
  - ⇒ システム改修後、都内全病院にEMISが導入されるのは、平成30年度末となる見込み

### 対応方針

EMISが導入されていない病院について、インターネットにより被害状況等を共有するためのツールを導入する

**<情報共有ツールの概要>**

- 病院被災状況入力機能（EMISが導入されていない病院のみ）
  - ・災害発生後に、各病院が被害状況を入力（入力する項目は、EMISの入力項目（緊急時入力・詳細入力）と同じ）
  - ・病院が入力した内容は、都・医療対策拠点・区市町村で閲覧が可能

**【入力内容】**

区分	【緊急時入力】		区分	【詳細入力】	
	中項目	小項目		中項目	小項目
項目	倒壊状況	入院病棟の倒壊・倒壊の恐れの有無	項目	施設の倒壊・倒壊の恐れ	入院病棟・救急外来棟等の倒壊の有無
	ライフライン・サプライ状況	電気・水の供給有無 医療ガス・医薬品等の不足		ライフライン・サプライ状況	電気・水・医療ガス・食料・医薬品の使用状況等
	患者受診状況	多数患者の受診有無		医療機関の機能	手術・人工透析の可否
	職員状況	職員の不足		現在の患者数状況	発災後受入れた患者数・在院患者数
	その他支援が必要な状況	自由記載		今後、転送が必要な患者数	重症度別患者数（重症・中等症等）
			外来受付状況・外来受付時間	外来受付状況・外来受付時間	
			職員数	出勤医師数・出勤看護師数等	
			その他	自由記載	

- 各病院の被害情報の集約
  - 区市町村が、集計機能を用いて、各病院の被害状況一覧表を作成
- 掲示板機能
  - 資料掲載等に活用できる掲示板を東京都及び二次保健医療圏ごとに設置

**<情報共有ツール・EMISの今後のスケジュール>**

区分	平成29年度	平成30年度	平成31年度
情報共有ツール	説明会 基礎情報調査 ID付与	運用開始	
EMIS (現在、導入されていない病院)		説明会 基礎情報調査 操作説明会・ID付与	運用開始